

岡本裕巳教授・横山利彦教授 退職記念の会 ご案内

初冬の候、皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、令和八年三月三十一日をもって、岡本裕巳教授ならびに横山利彦教授が、自然科学研究機構 分子科学研究所をご退職されることとなりました。

岡本裕巳教授は、光と物質の相互作用に関する研究を中心に、分子科学に新たな地平を拓く革新的な計測法の開発とその応用に尽力されてこられました。特に、ナノ空間に閉じ込められた光である局在プラズモン共鳴に伴う近接場に着目し、従来の手法では捉えることのできなかったナノスケールの現象を可視化する研究を先導されました。近接場分光を物理化学的・分光学的視点から深化・発展させる独自の研究路線を切り拓かれ、分子科学における分光・イメージング手法の新たな可能性を開かれたその業績は、国内外において高く評価されています。

岡本裕巳教授は、1985年に分子科学研究所助手として着任後、東京大学理学部助手・助教授を経て、2000年に分子科学研究所および総合研究大学院大学教授に就任されました。分子科学研究所において、光と物質の相互作用を時間的・空間的に分割して観するという独自のコンセプトのもと、マイクロからマクロにわたる階層的構造とダイナミクスの相関を明らかにする研究を精力的に探究されました。この理念を発展させ、2017年4月に発足したメゾスコピック計測研究センターの創設において中心的な役割を果たされました。同センターは、マイクロとマクロの中間に位置する「メゾスコピック領域」に着目し、分子システムにおける複雑な機能創発の起源となる過程を解明することを目的として設立されました。ここでは、理想化された極限条件下で大きなエネルギーを与えて解析する従来の方法とは異なり、繊細かつ広帯域・多次元の計測解析手法を駆使して、分子の「ありのままの姿」に迫るという新しい方向性を打ち出されました。さらに、低摂動かつ精密・繊細な制御によって新たな物質量子機能を創出する革新的実験法の開拓を目指すという、分子科学の将来を見据えた明確なビジョンを提示されました。この理念は現在もメゾスコピック計測研究センターの基幹的な研究指針として受け継がれ、次世代の分子科学における計測科学を導く礎となっています。加えて、2016年から2023年の間、分子科学研究所の総主幹として、研究所全体の構造と機能を的確に把握し、運営の透明性の向上と組織の活性化に大きく寄与されました。

学会活動においては、ご自身が副会長を務めるプラズモニク化学研究会を通じて、国内における研究コミュニティの形成と発展に大きく貢献されました。また、自然科学研究機構の新分野創成センター先端光科学研究分野プロジェクトでは主導的な役割を果たされ、国内の共同研究の活性化にもご尽力されました。さらに、日本学術会議化学委員会委員長を務めるなど日本の学術振興にも多大な貢献をなされました。加えて、学術研究に対する理解を広く社会へと深める科学啓発にも力を注がれ、地元である岡崎高校をはじめ、小・中・高等学校における科学教育活動にも積極的に協力され、若い世代に科学の魅力と探究の精神を伝えることで、次代を担う科学人材の育成にも尽力されました。

横山利彦教授は、放射光を活用した先端計測技術の開発と、それを基盤とする物質・エネルギー変換に関わる研究を推進され、分子科学における放射光利用研究の新たな地平を切り拓かれました。研究の初期には、磁性薄膜の開発と紫外領域における磁気二色性計測技術の確立に取り組まれ、UVSORを活用した高感度な紫外磁気円二色性計測を実現されました。また、紫外レーザーを駆使した光電子分光は、磁性薄膜やスピントロニクス材料の電子構造理解に新しい手法をもたらし、時間分解X線分光や光電子顕微鏡の開発を通じて、不均一触媒において重要な固体表面の電子構造ダイナミクスを時間軸で観測する研究を先導されました。さらに、放射光オペランド計測技術の開発にも尽力され、特に、Spring8を活用して、世界で初めて大気圧下での光電子分光を実現されました。この成果は、燃料電池や固体高分子電解質などの実際の動作環境にある電池・触媒材料の研究に新たな手法を提供し、環境化学・エネルギー科学の分野へと展開されています。

横山利彦教授は、1987年に広島大学理学部・物性学科助手、1993年に東京大学大学院理学系研究科化学専攻助手、1994年講師、1996年に助教授と歴任され、2002年に分子科学研究所および総合研究大学院大学の教授に就任されました。2007年から2013年には分子スケールナノサイエンスセンター長を務め、2011年からは物質分子科学研究領域主幹として研究体制の推進に携わられました。さらに、2014年～2016年、2018年～現在まで機器センター長を兼任、2020年から2023年まで総合研究大学院大学物理科学研究科構造分子科学専攻長を歴任されています。2023年以降は総合研究大学院大学先端学術院・分子科学コース長として要職を務めておられます。分子科学研究所では、特に、機器センターの運営・拡充にも尽力されました。創設当初から続く共同利用機能を引き継ぎ、全国の研究者が利用できる共同利用・共同研究ネットワークを発展させました。特に、文部科学省のナノテクノロジープラットフォーム事業（2012年～2022年）の領域代表及びその後継のマテリアル先端リサーチインフラ（2021年～）の機関責任者を務められ、分子科学研究所のみならず日本の共同利用環境の整備・拡充に多大なご貢献をされました。教育面においても、総合研究大学院大学 物理科学研究科 構造分子科学専攻においてコース長・副専攻長・大学院委員長を歴任されました。特に、5年一貫制博士課程や奨学金制度の設計と導入を主導され、総合研究大学院大学における教育制度と学生支援の基盤を確立されました。

学会活動においても顕著な功績を挙げられました。日本放射光学会会長として放射光科学の発展に寄与されるとともに、日本XAFS研究会の立ち上げに中心的に関与し、5代目会長として活動されました。これにより、学術と産業の双方におけるXAFS研究の応用拡大と若手研究者の育成に尽力され、その成果は多くの分野で実を結んでいます。

両教授は常に、「研究は研究者自身のアイデアによるボトムアップであるべき」という信念のもとに研究を展開されてきました。その姿勢は多くの若手研究者に影響を与え、分子科学における創造的探究の精神として受け継がれています。

このたび、両教授の長年にわたるご功績とご尽力に深く感謝の意を表し、退職記念講演（最終講義）および祝賀会を下記のとおり開催いたします。

ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、皆様のご賛同とご参加を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和七年十一月吉日

発起人 渡辺芳人、山本浩史、大森賢治

世話人 熊谷崇、杉本敏樹、湊丈俊

記

岡本裕巳教授・横山利彦教授 退職記念の会

日時 令和八年三月十日（火） 十三時三十分～十九時三十分（十二時三十分から受付を行います）

場所 岡崎コンファレンスセンター（愛知県岡崎市明大寺町伝馬8-1）

岡本裕巳教授最終講義 十三時三十分～

写真撮影・休憩 十五時～

横山利彦教授最終講義 十五時三十分～

退職記念祝賀会 十七時三十分～十九時三十分

祝賀会費 一万二千元（記念品代込）

記念品代 一口 二千元（希望の方のみ）

出欠のご連絡は分子研ホームページ上のグーグルフォームから令和七年十二月三十一日（水）までにお知らせいただけますと幸いです。

祝賀会費および記念品代は、左記銀行口座に令和八年一月三十一日（土）までにお振込みいただけますようお願い申し上げます。

三菱UFJ銀行 岡崎支店（店番：740）普通預金 口座番号：0466654

口座名義 オカモトヒロミキヨウジュ 岡本裕巳教授 ヨコヤマケンヒコキヨウジュ 横山利彦教授退職記念の会 ダイヒヨウ 代表 クマガイ 熊谷 タカシ 崇

以上